

平成19年度 活動報告



特定非営利活動法人
環境防災総合政策研究機構

目 次

1. 東京本部の活動報告………	1
2. 北海道支部の活動報告………	15
3. 関西支部の活動報告………	35
4. CeMIの活動を紹介した新聞記事 ……	41
5. 役員……………	49

1. 東京本部の活動報告

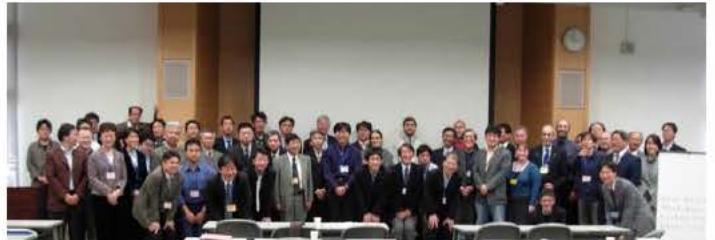
～受託事業～

- 地球温暖化分野の連携拠点における事務局運営
- 防災情報の提供と啓発に関する検討業務
- 津波避難推進に係る調査業務
- 津波映像作成支援
- 平成19年台風9号調査業務
- 浅間山アンケートデータ整理業務
- 伊豆諸島先史時代遺跡の研究－考古学と火山学の学際的研究

～自主事業～

- 平成19年中越沖地震被害調査
- カリフォルニア州地震安全委員会研究調査支援
- 風水害情報ガイドブック（増刷分）販売
- 世界災害報告（国際赤十字赤新月社連盟）2007執筆

平成19年度 活動報告（東京）

名称	地球温暖化分野の連携拠点における事務局運営（受託：気象庁）
要旨	「地球観測の推進戦略」（総合科学技術会議）を受け、気象庁と環境省が共同で設置した「地球温暖化観測推進の事務局」（つくば国環研内）運営。
分類	一般国民、ボランティア団体、一般企業、ライフライン機関、マスメディア、医療機関、地方自治体、政府等の複合領域分野における環境保全と防災に関する連携調整。
内容	<p>効率的・効果的な地球観測を推進するために設置された、地球温暖化分野の連携拠点事務局運営業務。本年は、専門家による3回の委員会と、国内ワークショップ1回、国際ワークショップ1回、関係府省・機関の連絡会議1回の開催および開催支援を実施。各会議開催にあたり、資料等作成、つくば市の事務局作業サポート、関係府省・機関の連携調整などの役割を担った。</p> <p>第1、2、3回地球観測推進委員会（4月、8月、1月） 国内ワークショップ（8月） 国際ワークショップ（3月） 第1回関係府省・機関連絡会議（3月）</p>
付記	<p>各種会議を通じて、地球温暖化に関する最新の知見を広めることができた。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>国際ワークショップ</p> </div>

平成19年度 活動報告（東京）

名称	防災情報の提供と啓発に関する検討業務（受託：近畿地方整備局）
要旨	近畿地方における防災・危機管理分野に関連する行政機関、ライフライン等多様な主体の連携のあり方について、既往の災害事例や研究事例等をの検討を実施。
分類	一般国民、ボランティア団体、一般企業、ライフライン機関、マスメディア、医療機関、地方自治体、政府等の複合領域分野における環境保全と防災に関する連携調整事業
内容	 <p>写真 意見交換会風景</p> <p>災害時の情報伝達における行政（近畿地方整備局）および報道機関の課題の抽出、ならびに的確な情報伝達を実現するための連携方策の検討。 報道機関と行政の連携方策について今後の実施方針を検討。</p>

平成19年度 活動報告（東京）

名称	津波避難推進に係る調査業務（受託：内閣府防災担当）
要旨	2006年～2007年1月にかけて2度発生した千島列島沖地震津波において、津波警報による避難者が非常に少なかったことを受け、「避難に向けた住民意識の向上」を目的とした、住民や地方自治体などへの意識調査等を実施。避難に対する住民の意識向上に資する施策を検討。
分類	環境保全と防災に関する調査・研究・技術開発・政策提言
内容	<p>津波避難を推進するに当たり、以下の作業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 資料収集および資料整理<ul style="list-style-type: none">- 津波避難推進施策に関わる国内論文文献を集中的に収集し、避難に向けた住民の意識の向上に役立つと思われるポイントを抽出。- 国外の参考例もまとめた。・ 住民及び地方自治体などへの意識調査<ul style="list-style-type: none">- 千島列島沖地震津波で津波情報が出された市町村すべてに対するアンケート調査を実施（回収率100%）。- 釧路市、標津町、浜中町、厚岸町、北見市常呂に対して面接調査を実施。- 釧路市、標津町、浜中町、厚岸町、根室市の津波危険地区において住民アンケートを実施（サンプル数400）。- 釧路市、標津町、浜中町、厚岸町において、住民への面接調査を実施（自治会を通じたインタビュー及び悉皆調査）。・ 避難推進に向けての対策の提言・ 得られたアンケート及び面接調査の結果をまとめ、避難推進に向けての対策を検討した。



厚岸町での住民面接調査の様子

平成19年度 活動報告（東京）

名称	津波映像作成支援（和歌山県）（受託：民間）
要旨	和歌山県の小学生高学年を対象にした津波防災啓発のための映像及び解説書の作成支援。
分類	一般国民、ボランティア団体、一般企業、ライフライン機関、マスメディア、医療機関、地方自治体、政府等の複合領域分野における環境保全と防災に関する連携調整事業
内容	<p>和歌山県の小学生高学年を対象にした津波防災啓発の映像資料（DV）と映像資料解説書を作成。</p> <p>作成にあたり設置された有識者及や学校教諭を交えた検討会を支援。</p> <p>現地での津波遺構の調査や津波災害の実体験のあるC e M Iスタッフの経験を生かした資料を作成。</p>



写真 浜口梧稜の像
(現地調査時撮影)



写真 稲むらの火の館
(現地調査時撮影)

平成 19 年度 活動報告（東京）

名称	平成 19 年台風 9 号調査業務（受託：河川情報センター）	
要旨	平成 19 年度風水害用語改正に伴う効果の調査を目的とした、東北地方における「平成 19 年台風 9 号災害・秋雨災害」に関するアンケート等調査の企画・実施。	
分類	環境保全と防災に関する調査・研究・技術開発・政策提言	
内容	<p>風水害用語改正後の本格的な水災害となった平成 19 年台風 9 号災害及び平成 19 年 9 月秋雨前線による東北地方における災害に関し、洪水情報を出した河川事務所、及び対象となった自治体にアンケートを実施し、改善の効果をまとめた。京浜河川事務所、荒川河川事務所、平塚市、世田谷区、及び深谷市には訪問ヒアリングも実施している。</p> <hr/> <p>【河川事務所アンケート】 対象：12 河川事務所 回収率 100%</p> <p>【台風 9 号自治体アンケート】対象：104 市区町村 回収数：73（回収率 70.19%） 【東北秋雨前線自治体アンケート】対象：18 市町村 回収数：14（回収率 77.78%）</p> <hr/> <p>また、実際に避難情報が出された自治体のうち、埼玉県深谷市の本田坂下・川本明戸・田中南の住民にもアンケートを実施し、とりまとめた。</p> <hr/> <p>【住民アンケート】 配布数：140 回収数：105 サンプル（回収率：75%）</p>	 埼玉県深谷市の被災地区
付記	<p>東洋大学社会学部関谷研究室と共同実施。 昨年 CeMII が編集・発行した「風水害情報ガイドブック」は、風水害用語改正に準じており、風水害用語の理解を普及する活動の可能性・及び効果を図る一助となるものである。</p>	

平成19年度 活動報告（東京）

名称	浅間山アンケートデータ整理業務（受託：民間）	
要旨	浅間山を訪れる登山客及び周辺住民の安心安全のため、ICT（携帯電話）を活用し火山・気象情報の配信の実証実験（プレ実験）を実施。また、登山客のニーズ調査を携帯電話のポータルサイト上において収集整理。	
分類	環境保全と防災に関する調査・研究・技術開発・政策提言	
内容	浅間山における【安心安全】を増進させるに当たり、いつでもどこでも必要な情報を入手できる仕組みづくりを目的に、浅間山ハイカーを対象として携帯電話のポータルサイトを利用した入山・下山管理及び情報配信の実証実験を実施。また、利用者に対してアンケートをとり、ICTによる火山・気象情報の可能性と課題についてまとめた。	
  <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>登山時</p> <p>登山道入り口に設置したリーダーライタをかざしサイトアクセスし登山登録</p> <p>送信メール To:...@... 件名:... 浅間山実験登録 (入山) そのままで送信してください。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>下山時</p> <p>登山道入り口に設置したリーダーライタをかざしサイトアクセスし下山登録</p> <p>送信メール To:...@... 件名:... 浅間山実験登録 (下山) そのまま送信してください。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">→ 入山・下山登録の仕組み</p> </div>		
付記	<p>次年度は、地元関係機関を加えた協議会を設立。取り組みが地域主体で本格実証実験、及び運営が図られるよう支援を予定。ポータルサイトの充実を図る。</p> <p>開発に当たり、NTTドコモ、小諸市役所、利根水系砂防事務所、気象庁と、様々な分野との連携を図った。</p> <p>ICTを活用したアイディアはCeMIによるものである。また松尾事務局長は専門月刊誌「河川」への寄稿や、国土交通省のユビキタス委員会において、この取り組みを広く紹介している。</p>	

平成19年度 活動報告（東京）

名称	伊豆諸島先史時代遺跡の研究－考古学と火山学の学際的研究 (受託：三菱財団研究助成)
要旨	三宅島火山におけるカルデラ形成噴火で埋没した弥生時代の遺跡の発掘調査及び、発掘結果の普及啓発活動。
分類	環境保全と防災に関する調査・研究・技術開発・政策提言
内容	 

写真 発掘調査風景

資料 発掘調査発表会ポスター

2000年噴火同様、カルデラ形成噴火により埋没した弥生時代の遺跡を発掘調査し、当時の人間と自然との噴火の影響について研究した。調査・研究結果は『Cities on Volcano 5』で発表し、発掘調査チームで発掘調査発表会の開催・運営も行い、学術的にも広く貢献した。

平成19年度 活動報告（東京）

名称	H19 中越沖地震被害調査（自主事業）
要旨	平成19年7月16日に発生した中越沖地震の被害状況を調査するため、現地で被害状況の視察・調査を行った。
分類	環境保全と防災に関する調査・研究・技術開発・政策提言
内容	<p> </p> <p>写真 倒壊した神社 (番神地区)</p> <p>写真 倒壊した家屋 (東本町地区)</p> <p> </p> <p>写真 折れた煙突 (クリーンセンター)</p> <p>写真 土砂で埋もれた駅と その周辺 (青海川地区)</p> <p>平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震の被災地・被災状況の予備調査及び、現地調査を行った。現地調査においては、地震による被害状況に加え、行政の対応、インフラへの影響、住民生活などを視察した。</p>

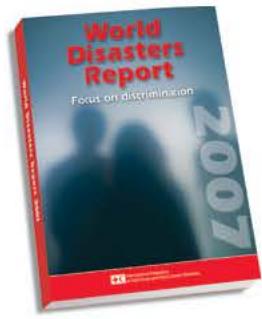
平成19年度 活動報告（東京）

名称	カリifornia州地震安全委員会研究調査支援 (自主／カリifornia州地震安全委員会)
要旨	CeMIが交流を図ってきたカリifornia州地震安全委員会（事務局長：マッカーシー理事）の主催で、平成16年中越、平成19年中越沖地震の被災状況と対策の視察と、日本における地震対策調査を目的に、関連機関を訪問。CeMIは調査団訪問前・訪問時の機関調整を実施。
分類	環境保全と防災に関する調査・研究・技術開発・政策提言
内容	<p>平成19年11月3日から10日の日程で、カリifornia州総務局ロサリオ・マリーン長官を団長とする一行が来日し、CeMIは全訪問の日程調整（東京・新潟に関しては東京事務所、静岡に関しては川端理事が担当）、東京・新潟における訪問調査に関しては事務局員が同行し、資料収集のほか、会議通訳等を行った。米国側のアレンジの中心となったグナ理事、地震安全委員会のマッカーシー理事を含め、事務局員と地震安全委員会のよき交流の場ともなった。東京・新潟における訪問先は以下の通り。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【東京】気象庁（緊急地震速報に関して）、内閣府防災担当（中越沖地震の対応に関して）、東京海上日動（緊急地震速報の民間における活用に関して）、本所防災館（防災教育に関して）、損害保険協会（地震保険に関して）</p> <p>【新潟】新潟県庁（県知事・防災担当者と中越・中越沖地震に関して懇談）、柏崎市（副市长・防災担当者と懇談、被災地視察）、リケン株式会社（被災時の企業対応に関して）</p> <p>*訪問に関して、新潟新聞、及び新潟のテレビでもニュースとして取り上げられた。</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>内閣府（防災担当）訪問</p>  <p>青海川駅（柏崎市）にて</p> </div> </div>

平成19年度 活動報告（東京）

名称	風水害情報ガイドブック(増刷分)販売（自主事業）
要旨	昨年 CeMI が出版をした、「わかりやすい風水害情報ガイドブック」の継続販売
分類	防災機関及び住民への防災用語改善啓発 環境保全と防災に関する書籍等の出版・販売
内容	 <p>改訂版「わかりやすい風水害情報ガイドブック」は、平成18年度に国土交通省河川局及び気象庁が発表した防災用語改善に関する取組みなどを、「風水害情報ガイドブック 第一版」（平成16年7月発刊）に反映させたものである。</p>

平成19年度 活動報告（東京）

名称	世界災害報告(国際赤十字赤新月社連盟)2007 執筆 (自主事業)	
要旨	世界災害報告 World Disasters Report 2007 の執筆	
分類	—	
内容	<p>世界災害報告 World Disasters Report は国際赤十字赤新月社連盟（IFRC）により 1993 年以来毎年発行され、世界各国で発生した主要な災害をその年のテーマに沿って検証するものである。過去の災害の統計・分析が併せて掲載されており、災害について論じる世界唯一の年刊として資料的価値が高いものとされている。</p> <p>本年、2007 年度のテーマは【差別 Discrimination】であった。人権の専門家を中心に当初は執筆者が割り振られたが、インド洋大津波で特に問題になったマイノリティへの差別と災害に関しては、当初の執筆者による草稿が「災害救援・対応のオペレーションが踏まえられていない」、「例示がインド洋大津波ばかりであり、地域的バランスが悪い」という問題があり、赤十字として、テクストを大幅に書き直す第二執筆者を探す必要性が生じ、マイノリティの権利の専門である東京事務所所属の研究員・中村隼人に IFRC から依頼があり、執筆（Chapter.2）を急遽行った。</p> <p>Chapter.2 の最後には著者紹介があり、英文で CeMI の名前も記入されている。内容に関しては、各所から好評を得ている。また、報告書の要約は現在フランス語、スペイン語、アラビア語、スウェーデン語等に翻訳がされており、日本赤十字社によると日本語への翻訳予定があるとのことである。要約版に記載されるコラムに、中村執筆のコラムが採用されたこともあり、要約版にも CeMI の名前が記載されている。</p> <p>報告書は http://www.ifrc.org/publicat/wdr2007/summaries.asp からダウンロードが可能。</p>	

قام بإعداد هذا الفصل بريتي تانيجا، وهو صحفي يعمل مع المجموعة الدولية لحقوق الأقليات، التي تعمل على تأمين حقوق الأقليات العرقية والدينية واللغوية، والشعوب الأصلية في العالم أجمع؛ وساهم أيضاً بهذا الإطار هاياتو ناكامورا، وهو باحث في معهد سياسة إدارة الأزمة والبيئة، طوكيو، ومساعد دولي للمحفل النسائي لتأميم نادو في شيناي، الهند.

アラビア語による「CeMI」の正式名称記載部分

2. 北海道支部の活動報告

～受託事業～

- 伊達市防災アドバイザー
- 札幌市防災リーダー育成支援活動
- 樽前山周辺地域における防災啓発活動
- 樽前山火山活動時における初動対応検討会
- 沙流川流域における住民主導型環境・防災活動の支援
- 有珠山地域における火山と共生した「みち」づくり有識者会議の開催・運営
- 苫小牧市民防災講座 企画・運営
- 雉阿寒岳火山噴火対応計画検討会
- 豊平川上流地区における地域防災力向上の支援活動
- 1977年有珠山噴火30周年記念フォーラム 企画・運営
- 洞爺湖周辺地域エコミュージアムの推進支援
- 樽前山における普及啓発資料（パネル）作成支援活動

～自主事業～

- ニュージーランド・日本合同フォーラム 企画・運営
- 有珠山ガイドブック改訂版の作成
- 災害情報研究会 企画・運営
- 1977年有珠山噴火30周年記念パネル 企画・作成
- 自治体広報紙への防災記事の寄稿
- 火山都市国際会議（COV5）への参加

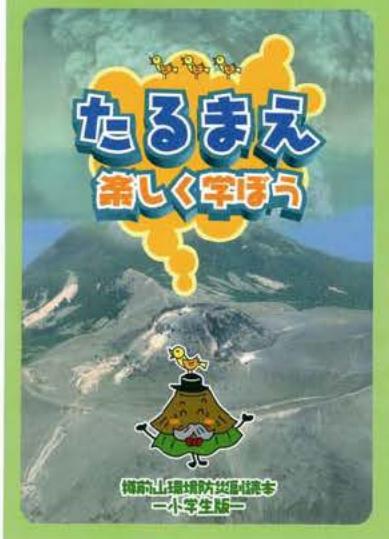
平成19年度 活動報告（北海道）

名称	伊達市防災アドバイザー（受託：伊達市）
要旨	伊達市役所職員及び伊達市民を対象とした防災支援活動
分類	防災地域行政支援と普及啓発
内容	<p>前年度までに引き続き今年度は次の業務を行った。</p> <p>1) 広報誌だてへの防災記事寄稿（33頁参照） 2007年6月号 日頃から災害に備えましょう⑥噴火編その2 2007年9月号 日頃から災害に備えましょう⑦噴火編その3</p> <p>2) 有珠山現地見学会 2007.10.12 有珠火山防災会議協議会の防災担当者対象。2000年噴火で形成された火口と断層全域。参加者 28名 2007.10.13 伊達市民対象。有珠山山頂部。参加者 30名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>10/12 有珠火山防災会議協議会 防災担当者対象の現地見学会 10/13 伊達市民対象の現地見学会</p> <p>3) 市民防災講座 2008.2.15 演題：来るべき地震に備えて</p> <p>付記</p> <p>野外見学行事や市民防災講座の参加者の中にはリピーターが居り、地域の防災力向上に寄与している。</p>

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	札幌市防災リーダー育成支援活動（受託：石狩川開建）
要旨	昨年度からの防災リーダー育成事業の継続活動として、札幌市東区および北区の防災リーダーを対象とした研修会を企画・運営。豊平川・新川洪水危機管理協議会（札幌市、石狩川開発建設部、札幌管区気象台、札幌土木現業所など）と連携。
分類	社会教育、まちづくり、防災普及啓発
内容	 <図上訓練（東区）>  <現地見学（北区）> <p>札幌市では洪水ハザードマップを平成16年、17年に南区を除く8区の全世帯に配布している。このハザードマップの普及を図るとともに洪水時に安全な避難行動を促すために地域の防災リーダーを育成する研修会を平成18年度から実施している。CeMIは平成18年度に引き続き、研修プログラムの立案、講義・演習内容および現地見学内容の決定と講師の派遣等の支援を行った。</p>

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	樽前山周辺地域における防災啓発活動（受託：室蘭開建）		
要旨	樽前山周辺の地域住民の防災社会教育ならびに啓発講演会等の実施による地域防災力の向上を図ることを目的。樽前山周辺の防災機関や教育関係者からなる「環境防災教育検討会」での検討、樽前山環境防災副読本（小学生を対象）の作成、副読本（中学生版）を活用した試行授業、地域防災啓発に関する各種出前講座、樽前山を知るフィールドトリップの開催。		
分類	社会教育、防災シンポジウム開催普及啓発、環境保全・防災連携調整		
内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p><啓発講演会></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><樽前山副読本></p> </div> </div>		
	 <p><環境防災教育検討会></p>	 <p><フィールドトリップ></p>	

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	樽前山火山活動における初動対応検討会（受託：室蘭開建）	
要旨	樽前山周辺地域では、噴火初動時の機関連携の具体的な対応とともに、火山情報のあり方や防災情報の共有などが危急の課題となっている。この課題について検討するために平成17年10月から「樽前山火山活動における初動対応検討会」を設置している。今年度は中規模噴火対応に関する図上訓練を実施し、対応検討ガイドライン（案）をとりまとめた。	
分類	社会教育、防災機関連携調整	
内容		
	<初動対応検討会の様子>	<危機管理検討部会：図上訓練>
	<p>平成18年度に引き続き、「情報検討部会」と「危機管理検討部会」の2部会を設置して個々の課題に関する検討を実施。</p> <p>情報検討部会：樽前山における火山防災情報のあり方（噴火警戒レベル含む）や情報共有のあり方について検討を実施。</p> <p>危機管理検討部会：昨年度、とりまとめられた樽前山火山噴火シナリオの内、中規模噴火型シナリオを基本とした訓練シナリオに基づき、図上訓練を実施。図上訓練を通して具体的な課題や連携方針を検討。</p> <p>噴火シナリオについては、2007.11/16 の日本災害情報学会で発表した。</p> <p>平成20年度以降は初動対応に焦点を当てた検討会から火山噴火災害全般を対象とした検討会へ発展させて継続の予定。</p>	

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	沙流川流域における住民主導型環境・防災活動の支援（受託：室蘭開建）
要旨	流域住民や関係機関と連携した環境・防災ワークショップ等を通じた住民主導による“豊かで安全な流域未来をつくる”ための支援活動。
分類	社会教育、まちづくり、防災普及啓発、環境保全・防災機関連携調整
内容	 〈学校での野外実習前講座〉  〈門別地区における防災講演会〉  〈防災マップの検討〉  防災マップ（案）富浜地区
	<p>平成19年度は、昨年度から引き続き防災まちづくりに関する検討を実施。地域の防災意識高揚を目的とする講演会や子ども向け防災講座の開催、防災に関する住民情報を記載した「流域防災情報マップ」について作成・検討した。</p>

平成 19年度 活動報告（北海道）

名称	有珠山地域における火山と共生した「みち」づくり 有識者会議の開催・運営（受託：胆振支庁（室蘭土現））
要旨	平成 18 年度に地域住民と開催した有珠山外環状道路に関する「火山との共生と地域の「みち」を考えるワークショップ」を踏まえて、具体的な道路計画を有識者と考える会議を開催。 今後の地域住民へ向けた情報提供、合意形成のあり方なども検討し、有識者による意見書をとりまとめた。
分類	まちづくりの推進、防災普及啓発、防災機関連携調整
内容	  <p><有識者会議> <現地踏査></p> <p>事務局（当法人のほか北海道室蘭土木現業所、地元自治体）と有識者（宇井理事、岡田理事、田村室蘭工業大学教授）で、計2回の会議を開催。道路計画の課題を整理、今後の住民へ向けた情報提供、合意形成のあり方について議論。有識者意見をとりまとめ、有珠山地域における道路計画のあり方についての意見書を作成。</p>

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	苫小牧市民防災講座 企画・運営（受託：室蘭開建）
要旨	自然災害から地域や自分自身を守るために、被災から回避するための知識を学ぶことを目的に苫小牧市で毎年開催。日々の生活の中で、防災に向けた主体的な活動を行える市民をより多く育成することを目標とする。
分類	防災普及啓発、社会教育事業
内容	 2/2 圖上訓練  2/2 火山災害  1/31 土砂災害  2/1 河川災害
	<p>日時：平成20年1月31日～2月2日 会場：苫小牧市民会館小ホール 人数：およそ50名</p>

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	雌阿寒岳噴火対応計画検討会（受託：釧路開建）	
要旨	<p>雌阿寒岳の噴火は、その規模によっては観光客や地域住民生活、地域経済への影響も甚大となる。2006年3月の小規模噴火を機に、火山活動の平穏期に噴火時防災対策のあり方について連携を深め、取り組みを共有することを目的に設立。その企画・運営を実施</p>	
分類	<p>社会教育、防災に関する調査・研究 防災機関連携調整</p>	
本年度は、検討会の下に3部会・1グループを設置。 関係機関による噴火シナリオの検討や、防災基盤の共有と問題点の整理、防災啓発の取り組みなどを実施した。		
内容	<pre> graph TD A["雌阿寒岳噴火対応計画検討会 座長 新谷 融 副座長 高橋 清"] --- B["火山防災情報検討部会 部会長 宇井忠英"] A --- C["火山防災体制検討部会 部会長 岡田 弘"] A --- D["防災基盤のあり方検討部会 部会長 高橋 清 副部会長 山田 孝"] A --- E["地域防災力向上推進グループ 統括 松尾一郎、 石川 正(釧路市) 渡辺俊一(足寄町) 北林 勉(釧路開建)"] </pre> <p>〈本検討会、各部会の関係と統括者〉</p>	
<p>〈検討会〉</p>		
<p>〈ワーキング（シナリオ検討）〉</p>		
<p>〈啓発講演会（阿寒町）〉</p>		

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	豊平川上流地区における地域防災力向上の支援活動（受託：石狩川開建）	
要旨	豊平川流域において、地域住民による流域環境の保全と水・土砂災害の軽減を主眼において、これらに関わる環境・森林管理者、河川・ダム管理者、気象官署等の防災・危機管理機関等が地域住民と連携することを目的として「豊平川流域環境防災ワーキング」を平成18年度に引き続き開催し、流域防災情報の共有、風水害に対する地域防災力向上のあり方等の検討を行うとともに、地域住民を対象とした啓発活動を行った。また、次年度以降はモデル地域を設定して具体的な取り組みを行うことを確認した。	
分類	社会教育、防災機関連携調整	
内容	 <豊平川 WG の様子>	 <啓発講座：図上訓練>
	<p>ワーキングは3回開催し、モデル地域における具体的な取り組み方針を確認するとともに、過去の事例における情報の流れを整理した。過去の事例整理によって、情報の流れの課題や行動基準の整理の必要性などが明らかとなった。</p> <p>住民啓発講座は南沢地区と石山地区の2地区を対象に実施した。南沢地区においては、土砂災害危険箇所図を用いた図上訓練を実施し、住民から様々な意見を頂いた。</p>	

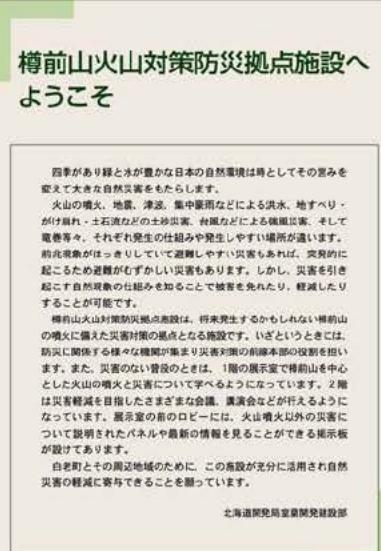
平成19年度 活動報告（北海道）

名称	1977年有珠山噴火30周年記念フォーラム企画・運営（受託：室蘭開建）
要旨	本年、1977年噴火から30周年を迎えた有珠山。有珠山周辺の固有の文化である「火山と共生するまちづくり」を振り返り、次世代に引き継ぐことを目的に、フォーラムを開催。関係機関による実行委員会を組織した。
分類	社会教育、まちづくり、防災普及啓発 環境保全・防災機関連携
内容	<p>I : 1977年噴火後30年のまちづくりと次の噴火に備える</p> <p>日時：平成19年8月7日（火）</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特別講演 「有珠山一噴火の歴史とまちづくりのこれまでと今後一」 北海道大学名誉教授 勝井 義雄 氏 ●記念講演 「活火山と共に存するまちづくり」 砂防地すべり技術センター理事長 池谷 浩 氏（元建設省砂防部長） ●パネルディスカッション 「次の噴火に備えた地域づくり」 コーディネーター：伊藤和明（防災情報機構会長） パネリスト： 大島弘光（北海道大学有珠火山観測所） 佐藤 徹（室蘭地方気象台次長） 阿部正義（有珠火山防災会議協議会事務局） 三松三朗（三松正夫記念館館長）   <p>8/7 記念講演</p> <p>10/6 座談会</p> <p>II : 1977年噴火後30年一災害につよいまちづくりー ～いまだからいえる 火山とともに歩んだ30年～</p> <p>日時：平成19年10月6日（土）</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基調講演「火の山に生きるまちづくり」 室蘭工業大学教授 田村 亨 氏 ●座談会「火の山に生きる いまだから言えるまちづくり30年」 コーディネーター 新谷 融 当時：北海道大学助教授（現：北大名誉教授） パネラー 長崎 良夫 当時：虻田町総務課長（現：洞爺湖町長） 他 30年のまちづくりにたずさわった人たち 6名 会場マスター 8名

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	洞爺湖周辺地域エコミュージアムの推進支援（受託：エコ協議会・内閣官房）
要旨	<p>エコミュージアムは地域を丸ごと「博物館」と見立て、自然、農場・山林・漁場や集落、遺跡などを展示品とみなし、住民参加型でつくりあげる新しいタイプの野外博物館である。洞爺湖周辺地域では、この取り組みを進めるため「洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会」（洞爺湖周辺1市3町の市町長と胆振支庁長、室蘭開発建設部長など国や北海道の機関をメンバーとして構成）を設立し、エコミュージアム構想の推進について検討している。さらに、ユネスコが支援している「ジオパーク」についてもその目的がエコミュージアムの取組と共通するものであることから、日本初のジオパークの認証に向けた取組もあわせて検討されている。</p> <p>本業務は、協議会の運営や地域教育等、エコミュージアムおよびジオパークの取り組みについて地域を支援するものである。</p>
分類	社会教育、まちづくり、防災普及啓発、環境保全・防災機関連携
内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>11/13, 14 現地見学会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>1/24 1市3町住民説明会（豊浦町）</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>12/5 協議会幹事会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>1/18 ジオパークフォーラム</p> </div> </div>

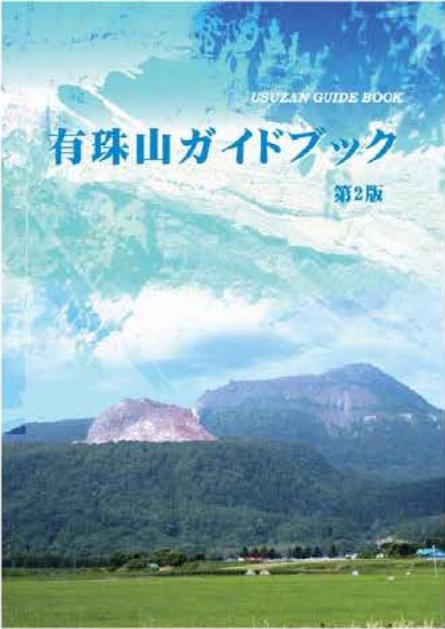
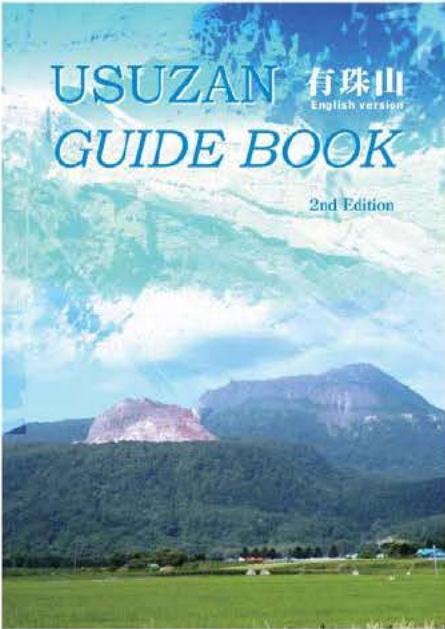
平成19年度 活動報告（北海道）

名称	樽前山における普及啓発資料（パネル）作成支援活動（受託：室蘭開建）													
要旨	<p>白老町に建設された「樽前山火山対策防災拠点施設」のロビーと展示室に展示する各種自然災害の解説パネルの原稿作成支援。</p> <p>これは、北海道開発局室蘭開発建設部が、活火山である樽前山の火山噴火に際しての防災拠点として位置づけ、建設しているもので、白老町の消防庁舎と併設され、火山噴火以外の自然災害発生時にも重要な役割を果たす施設である。</p>													
分類	防災普及啓発													
内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>樽前山火山対策防災拠点施設</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>パネル展示</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p>樽前山火山対策防災拠点施設へようこそ</p> <p>四季があり緑と氷が豊かな日本の自然環境は時としてその苦みをもたらします。火山の噴火・地震・津波・集中豪雨などによる洪水・地すべり・かけ崩れ・土石流などの土砂災害・台風などによる強風災害・そして電巻等々。それぞれ発生の仕組みや発生しやすい場所があります。前兆現象がはっきりしてて避難しやすい災害であれば、実験的に起こるため避難がむずかしい災害もあります。しかし、災害を引き起こす自然現象の仕組みを知ることで被害を免れたり、軽減したりすることが可能です。</p> <p>樽前山火山対策防災拠点施設は、将来発生するかもしれない樽前山の噴火に備えた災害对策の拠点となる施設です。いざというときは、防災に關係する様々な機能が集まり災害対策の前線本部の役割を担います。また、災害のない普段のときは、1階の展示室で樽前山を中心とした火山の構造と災害について学べるようになっています。2階は災害軽減を目指したさまざまな会議・講演会などを行えるようになっています。展示室の前のロビーには、火山噴火以外の災害について説明されたパネルや最新の情報を見ることができます。白老町とその周辺地域のために、この施設が充分に活用され自然災害の軽減に寄与できることを願っています。</p> <p>北海道開発局室蘭開発建設部</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>強風災害</p> <p>発達した低気圧や台風が近づくと強風による災害が発生します。平均風速が毎秒10メートルを超えるような場合には強風注意報が出で、物が飛び始め歩きにくくなります。平均風速が毎秒25メートルを超えるような時は暴風警報が発出。暴風警報の下では屋外に立っていることが難くなり、樹木が倒れたり、家の屋根がはがれて飛んできます。</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>強風警報</th> <th>暴風警報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均風速 10m/s以上</td> <td>平均風速 25m/s以上</td> </tr> <tr> <td>風速 瞬間風速 10m/s以上</td> <td>風速 瞬間風速 25m/s以上</td> </tr> <tr> <td>風向</td> <td>風向</td> </tr> <tr> <td>風速範囲</td> <td>風速範囲</td> </tr> <tr> <td>発生条件</td> <td>発生条件</td> </tr> </tbody> </table> <p>風水害対策 安全チェック</p> <p>強風や大雨に備えて家の周りを点検しておきましょう。</p>  </div> </div>		強風警報	暴風警報	平均風速 10m/s以上	平均風速 25m/s以上	風速 瞬間風速 10m/s以上	風速 瞬間風速 25m/s以上	風向	風向	風速範囲	風速範囲	発生条件	発生条件
強風警報	暴風警報													
平均風速 10m/s以上	平均風速 25m/s以上													
風速 瞬間風速 10m/s以上	風速 瞬間風速 25m/s以上													
風向	風向													
風速範囲	風速範囲													
発生条件	発生条件													

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	ニュージーランド・日本合同フォーラム 企画・運営（自主事業）
要旨	<p>2007年3月、ルアペフ火山（NZ）で火口決壊型火山泥流が発生した。この泥流では観測体制の整備により犠牲者は皆無で、また世界で初めて発生から流下までの経過が観測された。本フォーラムは、この火山泥流対策にかかわったニュージーランドの研究者を招き、火山泥流災害を軽減するための予測・警戒避難・泥流の制御・泥流被害地の修復などの事例紹介を通して交流し、意見交換を目的として開催した。</p> <p>北海道大学大学院農学研究院環境資源学部門 流域砂防研究室と共に共催。</p>
分類	社会教育、防災普及啓発、環境保全・防災機関連携
内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>〈特別講演 Noel Trustrum〉</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>〈特別講演 岡田 弘理事〉</p> </div> </div> <div style="text-align: center;">  <p><i>International Forum on Lahar Disaster Between Japan and New Zealand Hokkaido University, Sapporo November 27, 2007</i></p> </div> <p>タイトル：「火山泥流に学ぶ ～ニュージーランドと日本における減災システムと環境修復～」</p> <p>日時：平成19年11月27日（火）</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■特別講演 Noel Trustrum (GNS) 岡田 弘 (CeMII・壮瞥町防災学識アドバイザ) ■講演 Graham Leonard · Julia Becker · Vern Manville (GNS) Harry Keys (DOC, NZ) 丸谷 知己（北海道大学教授）・山田 孝（北海道大学准教授） 松尾 一郎 (CeMII) · 南里 智之 (北海道庁)

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	有珠山ガイドブック 改訂版の作成（自主事業）
要旨	2006 年に火山専門家・砂防専門家・翻訳者（3 力国）から構成される研究会で、有珠山の過去・現在をわかりやすくまとめた「有珠山ガイドブック」。「北海道洞爺湖サミット」開催を前に、海外にむけて有珠山を含めた洞爺湖周辺地域の魅力を PR すべく、日本語版と英語版を改定。
分類	環境保全、まちづくり推進 環境保全と防災に関する書籍出版
	改定作業を、研究会座長宇井理事と岡田理事が担当。
内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="text-align: center;"><p>日本語版 第2版</p></div><div style="text-align: center;"><p>英語版 第2版</p></div></div>

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	災害情報研究会 企画・運営（自主事業）
要旨	防災情報の相互理解・改善ならびにわかりやすく伝えるための方策など、それぞれの立場と情報の伝え方や情報共有のあり方などを研究。道内の放送各局、新聞社と国・道の関係機関が参画。
分類	社会教育、防災調査・研究
内容	<p>本年は、津波警報に関する研究会を2回開催した。 テーマは、北方領土で観測された地震（平成18年11月・平成19年1月）による津波警報とその報道について。 各局対応状況の事例報告、関係機関対応等の報告にもとづき、災害報道について議論した。</p>   <p>〈第8回研究会〉</p> <p>〈第9回研究会〉</p>

【第8回研究会】

日時：平成19年6月5日（火）19時30分～

会場：札幌テレビ放送（STV）会議室

【第9回研究会】

日時：平成19年6月28日（木）19時30分～

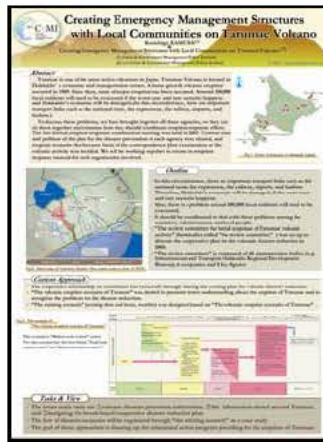
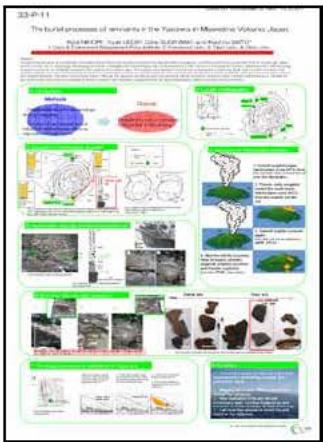
会場：北海道放送（HBC）会議室

平成19年度 活動報告（北海道）

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	自治体広報誌への防災記事の寄稿（受託・自主）																	
要旨	地方自治体へのアドバイザー業務の一環として、住民に配布される広報誌に防災に関する連載記事の執筆を担当するものである。																	
分類	社会教育の推進を図る活動																	
内容	<p>日頃から災害に備えましょう ⑦～噴火編その3～</p> <p>NPO法人 地域防災総合改修研究機構 専務理事 宇井忠英</p>  <p>“広報だて”（伊達市） 「日頃から災害に備えましょう」宇井理事</p>   <p>町民防災講座 第1回 「市民防災講座開講」</p> <p>越戸寒岱噴火対応計画検討会 地域防災力向上推進グループの取り組み方針 防災啓発の推進（できることからやってみる）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>実施 施設</th> <th>対象</th> <th>実施 施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>町内会・自治会 百戸の池せき隊 火防からくる ●東の火防をくらむ ●西の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ</td> <td>実施 施設</td> <td>観光事業者 観光業者 観光業者 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ</td> </tr> <tr> <td>方法</td> <td>●スライダー、講義と ●映像による</td> <td>実施 施設</td> <td>学校現場 子どもの未来 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>新規社・放送局 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ</td> <td>実施 施設</td> <td>新規社・放送局 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ</td> </tr> </tbody> </table> <p>地域の防災意識向上</p>		対象	実施 施設	対象	実施 施設	対象	町内会・自治会 百戸の池せき隊 火防からくる ●東の火防をくらむ ●西の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ	実施 施設	観光事業者 観光業者 観光業者 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ	方法	●スライダー、講義と ●映像による	実施 施設	学校現場 子どもの未来 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ	対象	新規社・放送局 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ	実施 施設	新規社・放送局 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ
対象	実施 施設	対象	実施 施設															
対象	町内会・自治会 百戸の池せき隊 火防からくる ●東の火防をくらむ ●西の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ	実施 施設	観光事業者 観光業者 観光業者 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ															
方法	●スライダー、講義と ●映像による	実施 施設	学校現場 子どもの未来 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ															
対象	新規社・放送局 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ	実施 施設	新規社・放送局 ●火防の火防をくらむ ●火防の火防をくらむ															

平成19年度 活動報告（北海道）

名称	火山都市国際会議（COV5）への参加（自主事業）
要旨	<p>火山都市国際会議（Cities on Volcanoes）は、火山学の国際学術組織であるIAVCEIの活動として1988年以来ほぼ1年おきに開催されており、今回の島原大会は第5回、アジアで最初の開催であった。</p> <p>火山学だけでなく、社会科学、医学、工学分野の研究者や火山防災にかかわる行政関係者、マスコミ、住民が参加するのが特徴で、火山噴火が周辺の都市とそこに居住する住民に与える影響などについて幅広く議論し、情報交換する場である。</p> <p>CeMIでは、会議の趣旨に賛同し後援したほか、宇井・岡田両理事が実行委員・国際学術プログラム委員・セッションコンビーナとして運営に深く関わり、座長やパネラー等の役割も果たした。また、会議には理事・研究員8名が参加し、発表した。</p>
分類	社会教育、防災の調査・研究
内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>〈火山学 Q&A in 島原〉</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>〈現地見学での案内〉</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>〈樽前山初動対応検討会〉</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>〈伊豆三宅島火山における泥流で流された弥生時代集落と埋没過程〉</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>〈北海道火山防災サミット〉</p> </div> </div>

3. 関西支部の活動報告

～自主事業～

- 小中高校における出前授業（自主）
- 地域住民や市民団体を対象とした啓発講座（自主・受託）
- 海外火山研修（自主）

平成19年度 活動報告（関西）

名称	小中高校における出前授業（自主）	
要旨	今年度は13の小中高校で火山噴火や地震に関する防災の視点を交えた出前授業を実施した。	
分類	学校教育支援	
内容	2007.5.15	北海道伊達市立有珠中学校 まちづくり学習：有珠山とともに生きる
	2007.5.22	北海道苫小牧市立弥生中学 校 災害時の避難を考える
	2007.7.10	北海道洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校 火山を体験しよう（環境省19年度子どもパークレンジャー事業の一部として登山）
	2007.7.30	北海道立札幌北高校 北海道の火山
	2007.7.31	北海道立札幌北高校 野外実習：有珠山
	2007.10.4	北海道壮瞥町立壮瞥中学校 有珠山で起こった噴火とまだ起きていない噴火
	2007.10.17	宮城県立仙台西高校 三松正夫が種を蒔いた火山防災文化—有珠山周辺地域で何が行われてきたか—
	2007.12.6	大阪府茨木市立春日小学校 生きている地球：世界の火山噴火と地震
	2007.12.7	大阪市立姫島小学校 来るべき地震に備えて
	2007.12.17	北海道広尾町立広尾第二小学校 世界の様々な火山とその噴火
	2008.1.16	大阪府茨木市畠田小学校 生きている地球：世界の火山噴火と地震
	2008.1.18	大阪府茨木市中条小学校 生きている地球：世界の火山噴火と地震
	2008.2.18	北海道苫小牧市立明野中学 栄前山を知る



7/30 北海道立札幌北高校



12/7 大阪市立姫島小学校

平成19年度 活動報告（関西）

名称	地域住民や市民団体を対象とした啓発講座（自主・受託）		
要旨	今年度は火山噴火や地震を中心として防災に踏み込んだ市民向けの啓発講座を実施した。		
分類	社会教育の推進を図る活動、防災に関する普及啓発		
内容	2007.5.7	宝塚市千種ヶ丘自治会防災講演会	来るべき地震に備えて
	2007.8.1	恵庭市キッズ防災キャンプ	地震や火山噴火との付き合い方
	2007.8.31	ジオパーク構想と洞爺湖地域エコミュージアムフォーラム	ジオパークにふさわしい海外の火山地域
	2007.9.2	ジオフェスティバル in Sapporo	地震断層形成の仕組み
	2007.9.11	北海道豊浦町防災講演会	来るべき地震に備えて
	2007.9.15	日本災害情報学会公開シンポジウム “三宅島火山災害から7年”	活火山地域における危機管理と共生～2000年有珠山噴火を例にとって～
	2007.9.29	ヘーベリアン倶楽部（大阪）	地球の営みを知ろう “火山と地熱の国ニュージーランド”
	2007.11.28	北海道鹿部町本別地区別荘団地自治会	北海道駒ヶ岳噴火を想定した図上訓練
	2007.12.13	北海道鹿部町防災講演会	北海道駒ヶ岳の噴火と災害
	2008.1.17	大阪府茨木市理科教育研究会	実験を通じて地震や噴火の仕組みを学ぶ
	2008.2.4	北海道足寄町防災講演会	自然災害の軽減に向けて
	2008.2.20	NPO 法人シニア自然大学（大阪府）	来るべき地震に備えて



5/7 宝塚市千種ヶ丘自治会
防災講演会



11/28 北海道鹿部町本別地区
別荘団地自治会図上訓練

平成19年度 活動報告（関西）

名称	海外火山研修（自主）
要旨	海外の火山教育・火山防災・火山観光の先進地にグループを案内する研修旅行企画でCeMiの発足当初から継続して実施している。対象地はハワイ島のキラウエア火山、米国カスケード火山帯のセントヘレンズ火山、及びニュージーランド北島の火山地域である。それぞれ1週間程度のコースを設定してグループでの申し込みを募っている。
分類	社会教育の推進を図る活動、学校教育支援、防災に関する普及啓発
内容	2005年1月に実施したハワイ島コースの参加者の一部であった宮城県の高校地学教員グループがセントヘレンズ火山コースの実施を求めてきたが、先方の周知期間が不十分で今年度の実施は断念した。2008年7月末から実施することが確定している。
付記	従来の参加者の大部分は教員であるが、教員が休暇を取れる時期が限られているため、中々実施にこぎつけないのが現状である。しかし、過去の参加者がその経験を生かしていることから今後もこの事業は継続すべきである。
	 
	<p>セントヘレンズコースの実施例</p> <p>キラウエア火山コースの実施例</p>

4. CeMIの活動を紹介した新聞記事

- 伊達市防災アドバイザー
- 苫小牧市民防災講座
- 雉阿寒岳噴火対応計画検討会
- 洞爺湖周辺地域エコミュージアムの推進支援
- 小中高校における出前授業

伊達市防災アドバイザー（17頁参照）

2007.10.18 北海道新聞

31 札幌版 2007年10月18日(木曜日)

有珠山 1977年噴火現場ルポ

次代に伝えたい 火山防災の「原点」

無機質な空間銀沼火口

各所に地殻変動のつめ跡

1977年7月25日、山頂から噴火が起り、火口ガスによる死傷者5人。小石森が吹き飛ばされる。1979年、山頂付近で噴火、火口周辺に火口湖形成。1982年、山頂付近で噴火、火口湖が形成される。オガノ成。1983年、山頂付近で噴火、火口湖が形成される。火候が発生したが、表面に遮蔽。大噴火出現。1979年7月25日、本噴火爆発開始。山の火口を形成。熱和風呂より死亡者1人。谷下三山(別名山)崩壊。1949~50年、支那大陸から火山灰が飛来し、翌年1月22日に噴火が発生。同年2月、噴火が再び発生。1977~78年、8月7日、噴火が開始。火口ガラク、噴火前照相により死亡者が3人、地元住民、漁夫など約5000人の犠牲がある。有珠山山崩れ。2000年3月4日、山頂付近で噴火が起り、噴火活動、熱和風呂、噴石や噴火、噴出など約200度の発生がある。その後は火口が開いていたが、噴火活動は止んだ。今月火災更新される国土地理院のGPS位置システム、携帯電話を導入。地盤変動の動きを1秒ごとに測定する。

月のクレーターを見渡せる銀沼火口の眺めから、今有珠方面へと現地勉強会が行われる。

最新火口へと進む者も斜面を下る現地勉強会の一行。同様の訓練の実行が求められる。

八百川マツリ開催、開幕式発刊

はるかなく間に渡るサミット会場のゲート。ウインザーホテル跡地。1977年の噴火で倒れた樹木の倒木を切り抜け、小石森と斜面を下る現地勉強会の一行。

10/13 伊達市民対象の有珠山現地見学会を紹介

雌阿寒岳噴火対応計画検討会（24 頁参照）

2008.2.5 十勝毎日新聞

行政と住民が情報共有を

足寄・雌阿寒岳 噴火対応検討会 地域防災講演会



講演する宇井氏

【足寄】雌阿寒岳噴火対応計画検討会地域防災力向上推進グループ主催の「地域防災講演会」が4日、あしょろ銀河ホールで開かれた。北海道大名誉教授の宇井忠英氏が「自然災害の軽減に向けて」と題し、災害時の対応策や災害発生のメカニズムなどを解説し

同グループは足寄町、釧路市、帶広・釧路両開発建設部など10機関で構成。防災基盤の構築強化へ講演会を企画した。

宇井氏は、地震、大雨による洪水など各災害の発生の仕組みや対応策を紹介したほか、2006年3月に小噴火を起こし

た雌阿寒岳を足寄が抱えていることから、火山にも焦慮を抱いていた。未然の防災対策構築の重要性を強調し、「住民、行政、専門家、マスコミが情報を共有し、防災を

広い視野でどうあるべきが大切」とした。火山灰、泥流、火碎流など噴火がもたらすさまざまな被害についても解説した。
（丸山一樹）

2/4 足寄町防災講演会（38 頁参照）

洞爺湖周辺地域エコミュージアムの推進支援（27 頁参照）

2007.8.31 北海道新聞

2007.9.2 北海道新聞

北海道新聞

(平成19年)9月2日(日曜日)

地質遺産活用「ジオパーク」

熊の「オバケ」は「オバケ」で、那須湖流域で「ミミズク」アムが八月三十一日、洞爺湖ミタカセンタで開かれた。講師の柳原日本地質学会オバケ研究会委員長が、「太初のジオバター」を「洞爺湖周辺も名張の」を提唱し、函館大名登教授は「オバケはエコロジーゾーン」とマッチする」と歓迎した。(田村晋一郎)

オペータースマットワークが設立され、ヨーロッパへも中国を中心とした二万方キロが登録されている。
日本ではまだ登録していません。しかし、「二〇〇八年には日本から十件程度申請させていい」とし、「日本が出すなら火山」と側面を長く、「有珠山は過去の噴火史がわかつており、それが

それから、大名義理がジオーネーに含む言葉を、大名義理がジオーネーとして、ハワイのよう立てる。ハワイの共通語で、それが「アーヴィング・ジョンソン」の「アーヴィング・ジョンソン」である。

畠山弘次教授
農耕町が轟と云
かのひとと戻つける
と謂ふ。
さひに「火山と人間の
然の感動題題」
接觸する事無く生れたのか
有様にほぜゆでたのか
エコミーシャーク
じオババ、クモ
中立して、
地球だ
だけでも、活用する
要を訴えた。

洞爺湖周辺名乗りを

フォーラムで構想説明



ジオパークの認定条件などについて
説明する佃栄吉ジオパーク設立推進
委委員長

2007年(平成19年)8月31日(金曜日)

形の発達の問題を研究する。
国連教育科学文化機関
（UNESCO）による「ソバーツ（蘇聯漢學）」
として、既存の
苏联の蘇聯漢語「華語町」
や蘇聯の蘇聯漢語を統合する
ために、手始めに三十二
一二回の蘇聯町「ソバーツ」
の紹介をする。ソバーツ
は本邦語で、住民の関心を
高める。
ソバーツは地理学的
に由来する地理・地形名を

地質遺産 加盟目指す

近畿加盟店

意に近いジオパークの存在を知り、国内第一号の加盟に向けて活動を始めた。これに因る事で、フォーラムは午後六時

1.6版 第4社会 36

地質遺言

特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構 役員

(2008年6月12日現在)

役名	氏名	所属・役職
顧問	坂田 俊文	(財)地球科学技術総合推進機構会長
理事長	河田 恵昭	京都大学防災研究所巨大災害研究センター センター長 ・教授、人と防災未来センター長、財団法人阪神淡路大震災復興記念協会副理事長
副理事長	阿部 勝征	東京大学名誉教授、(財)地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター センター長、想定東海地震判定会会長、日本災害情報学会会長
専務理事・関西支部長	宇井 忠英	北海道大学名誉教授、日本災害情報学会副会長
総務理事	池谷 浩	(財)砂防・地すべり技術センター理事長
総務理事	中村 興一	北電総合設計(株) 研究所長
総務理事	川端 信正	静岡県防災局防災アドバイザー、日本災害情報学会事務局長
理事・北海道支部長	新谷 融	北海道大学名誉教授
理事	帆足 養右	富士常葉大学環境防災学部教授
理事	岡田 弘	北海道大学名誉教授、壮瞥町防災アドバイザー
理事	市澤 成介	(株)ハレックス 営業本部気象担当部長
理事	田中 淳	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授
理事・事務局長	松尾 一郎	日本災害情報学会 事務局次長、東京大学大学院情報学環客員研究員
理事	渡邊 定弘	(株)浜名湖国際頭脳センター 社長
理事	Guna Selvaduray	米国支部長、カリфорニア州立大学サンノゼ校 工学部教授、CDM事務局長
理事	Richard J. McCarthy	カリфорニア州政府 地震安全委員会 議長
監事	大竹 政和	東北大学名誉教授、(独)原子力安全基盤機構 技術顧問、日本地震学会会長
監事	藤吉 洋一郎	大妻女子大学教授、NHK解説委員、日本災害情報学会副会長

<ご意見・お問い合わせ>

東京本部 〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22 ローヤル若葉505号
Tel. 03-3359-7971 Fax. 03-3359-7987

北海道支部 〒060-0001 札幌市中央区北1条西8丁目2-39 日宝大通ビル8F
Tel. 011-271-2663 Fax. 011-204-7367

関西支部 〒665-0072 兵庫県宝塚市千種3-7-4
Tel. 0797-74-5601 Fax. 0797-74-5601

E-mail info@npo-cemi.com

URL <http://www.npo-cemi.com/>



特定非営利活動法人
環境防災総合政策研究機構

環境防災研究機構 北海道(地域CeMI) 活動報告

平成 19 年 6 月 22 日・9 月 12 日 平取町

貫気別小学校出前講座



平成 19 年 8 月 12 日 むかわ町

むかわこども地球探検隊



平成 19 年 8 月 31 日 洞爺湖町

「ジオパークとエコミュージアム」



平成 19 年 10 月 12 ~13 日 北見市常呂町
津波防災まちづくり体験学習 in ところ



平成 19 年 11 月 21 日 恵庭市

「町内会連合会」出前講座



平成 19 年 12 月 6 日 日高町

門別町地域防災講演会



平成 19 年 12 月 13 日 鹿部町

鹿部町防災講演会

